

前回ご紹介した懸賞金のチラシには、盛岡城の写真が使用されています。盛岡城の写真自体は、これまで複数枚確認されていますが、それらは全て、同じ構図の写真です。
この写真からは一体どんなことがわかるのか、今回はこの貴重な古写真にクローズアップしていきます。



盛岡城古写真について

盛岡城の建物が存在した頃は「ガラス湿板」が写真撮影の一般的な手法であったため、この写真の原版もガラス湿板でした。この写真は、後年にオリジナルの写真から複製した「ガラス乾板」からプリントしたものと考えられ、先人記念館所蔵の同じ構図の写真には、盛岡最古級の写真館である「一心亭」の印が残されています。
ここには、天守、二階櫓のほか、本丸殿舎の屋根の一部などが写されており、盛岡城の建物解体前のすがたを偲ぶことができる唯一の史料となっています。

写真を分析！

まず、この写真からは、屋根や窓の形、しゃちほこの有無などの盛岡城の意匠を読み取ることができます。

さらに、写真に写る石垣と今も残る石垣を比較し、その縮尺等の解析を行うことで、建物の高さや大きさなどを推測することもできます。

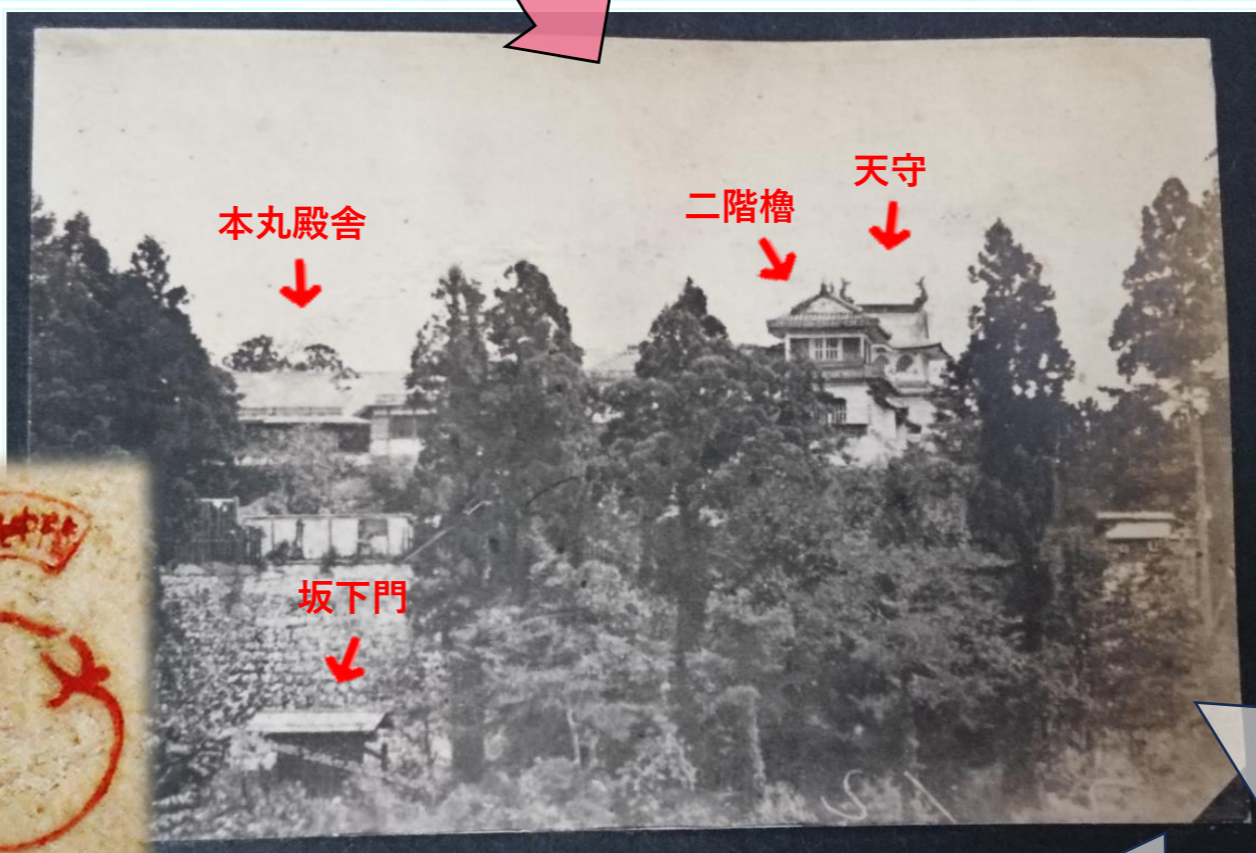
また、写真によっては、プリント技法や使われている紙から、写真がプリントされた時期が確認できることもあるようです。このようにわずか一枚の写真にも、実はたくさん貴重な情報が詰め込まれています。

江戸時代の城は、最大の軍事機密。そう簡単に撮影は許されず、では、この写真はいつどのように撮られたのか：藩の記録用なのか、廃藩置県後の写真なのか：一枚の写真にも、未だ多くの謎が残されています。その謎を解き明かすことが、往時の盛岡城に迫る一歩となります。



このようなガラス乾板をプリントすると...

→ これは、盛岡城の古写真を複写した「ガラス乾板」です。「ガラス乾板」とは、今でいう写真フィルムのようなもので、明治期から昭和30年代くらいまでに広く活用されてきた、写真の記録メディアです。
盛岡城復元調査推進室で実施した調査で、個人が所有する蔵において発見されました。清養院所蔵の写真と同じ構図となっています。



盛岡城古写真：清養院所蔵

一心亭の印



盛岡城小噺

第5話

その石垣の価値

盛岡城は、土塁の多い東北地方の近世城郭としては珍しく、総石垣造りを志向した城です。会津若松城、白河小峰城とともに、東北石垣造りの三大名城と呼ばれることもあり、財団法人日本城郭協会により、日本100名城に選定されています。

総石垣造りの城は、織田・豊臣政権により築城が開始されました。それまで、軍事施設の要素が強かった城は、権力の象徴として、政治的シンボルの役割も持つようになります。その後、この石垣造りの城は全国へと普及し、それが遠く盛岡の地まで影響を及ぼしたことは、当時の中央政権の力の大きさを感じさせます。

盛岡城の石垣は、城内やその周辺の地域から産出される花崗岩を使用して構築されています。このいわば”地産地消”の石垣は全国的にもめずらしく、地形や資源をうまく活用して築城された事例として、とても貴重なものです。城内から産出された大きな石は、今も盛岡城跡内に残され、身近に見ることができます。

そしてこの石垣、よく観察してみると、いろいろな積み方があることがわかります。盛岡城の築城に40年以上、石垣の完成にはさらなる年月を要したため、その間に石垣の加工技術も変化していったのです。それにより、時期ごとに積み方の異なる今の石垣ができあがりました。

築城の変遷を辿ることができ、多様な構築技術を現在/いまに伝える盛岡城の石垣は、先人たちの長年にわたる築城の努力を物語る歴史の証拠なのです。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。

盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。

